

与路島の昆虫採集記録

坂元 直幸 (理科)・金井 賢一 (教頭)

1 はじめに

筆者らは2019年7月13日～15日にかけて、大島郡瀬戸内町にある与路島にて、昆虫採集を行った。

事前の文献調査で判明したが、与路島における直翅類の報告が皆無なので(日本直翅類学会編, 2006), 新分布記録の報告を目標に掲げた。また、今回採集した甲虫目は鈴木(2019)によれば、リュウキュウニジゴミムシダマシ以外は与路島での記録がない。その結果、4目14科26種について新分布記録を確認したので、以下に報告する。

目の並びは琉球列島産昆虫目録(東・屋富祖, 2002)に従い、科及び種の配列と学名は、トンボは日本のトンボ(尾園ら, 2012), ゴキブリ・カマキリ・バッタなどの直翅類について日本産直翅類標準図鑑(町田・日本直翅類学会, 2016), セミは改訂版日本産セミ科図鑑(林・税所, 2015), カメムシは日本原色カメムシ図鑑第3巻(石川ら, 2012), 甲虫は日本列島の甲虫全種目録(鈴木, 2019), チョウは日本産蝶類和名学名便覧(猪俣ら, 2010-2013)を用いた。

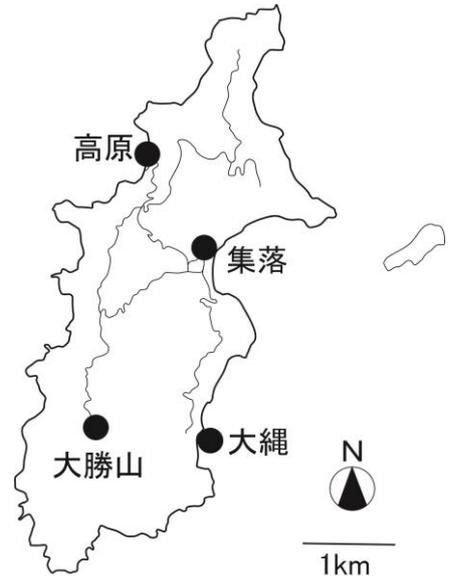


図1. 与路島調査地

2 調査日程

7月13日 11時 古仁屋港発(フェリーせとなみ代替漁船)～13時 与路島港着～高縄海岸～高原海岸～17時宿・夕食～19時30分高原にて灯火採集～23時宿

7月14日 8時高原海岸～大勝山～集落～宿昼食～高縄～集落～宿夕食～20時大勝山灯火採集～23時宿

7月15日 7時与路島発(フェリーせとなみ代替漁船)～9時古仁屋港着～油井岳～名瀬島内の移動は、民宿で借りた車にて行った。



図2. フェリーせとなみ乗船券

3 採集結果

トンボ(蜻蛉)目 ODONATA

ミナミヤンマ科 Chlorogomphidae

(1) ミナミヤンマ *Chlorogomphus brunneus costalis* Asahina, 1949

1♀, 13.VII.2019, 大縄海岸, 金井

トンボ科 Libellulidae

- (2) オオシオカラトンボ *Orthetrum melania melania* (Selys, 1883)

1♀, 13. VII. 2019, 集落, 坂元

- (3) オオハラビロトンボ *Lyriothemis elegantissima* Selys, 1883

1♀, 14. VII. 2019, 集落, 坂元

本種については、与路島の調査を精力的に行った岡崎幹人氏の発表にも含まれず（岡崎, 2010 など）、与路島新記録と思われる。

ゴキブリ目 BLATTARIA

~~マダラゴキブリ科 Epilampridae~~ オオゴキブリ科 Blaberidae

- (1) マダラゴキブリ *Rhabdoblatta guttigera* (Shiraki, 1960)

1ex., 13. VII. 2019, 高原海岸, 坂元

カマキリ（螳螂）目 MANTODEA

カマキリ科 Mantidae

- (1) ヒナカマキリ *Amantis nawai* (Shiraki, 1908)

1ex., 14. VII. 2019, 大縄, 坂元

- (2) ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera* (Audinet-Serville, 1839)

1♂, 14. VII. 2019, 集落, 坂元

バッタ（直翅）目 ORTHOPTERA

コオロギ科 Gryllidae

- (1) タイワンエンマコオロギ

Teleogryllus occipitalis (Audinet-Serville, 1839)

2♂, 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

- (2) タンボコオロギ

Modicogryllus siamensis Chopard, 1961

2♂1♀, 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

- (3) ハラオカメコオロギ ネットタイオカメコオロギ

Loxoblemmus equestris Saussure, 1877

1♂, 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

ヒバリモドキ科 Trigonidiidae

- (4) ハマスズ ハマコオロギ *Taiwanemobius ryukyuensis* Oshiro & Ichikawa, 1997

2♂3♀, 13. VII. 2019, 大縄海岸, 坂元

カネタタキ科 Mogoplistidae

- (5) アシジマカネタタキ *Ectotoderus tamna* Kim, 2011

1♂, 14. VII. 2019, 大縄, 坂元

ツコムシ科 Phaneropteridae

- (6) ダイトウクダマキモドキ *Phaulula daitoensis* (Matsumura & Shiraki, 1908)

1♂, 13. VII. 2019, 高原, 坂元 1♀, 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

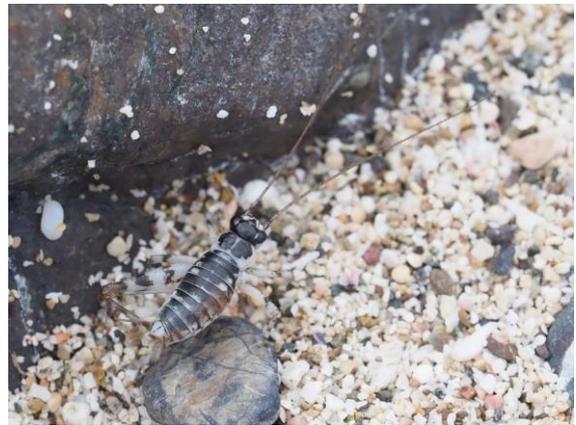


図3. ハマスズ ハマコオロギ

バッタ科 Acrididae

- (7) タイワンツチイナゴ *Patanga succincta* (Johansson, 1763)
1♂, 13. VII. 2019, 大縄海岸, 坂元
- (8) ショウリョウバッタ *Acrida cinerea* (Thunberg, 1815)
2♂, 13. VII. 2019, 大縄海岸, 坂元

カメムシ (半翅) 目 HEMIPTERA

セミ科 Cicadidae

- (1) ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi* (Fabricius, 1794)
1♂1♀, 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

ヨコバイ科 Cicadellidae

- (2) ヒラタミミズク *Tituria angulata* (Matsumura, 1912)
1ex., 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

ホソヘリカメムシ科 Alydidae

- (3) ホソヘリカメムシ *Riptortus (Riptortus) pedestris* (Fabricius, 1775)
1ex., 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

コウチュウ (甲虫) 目 COLEOPTERA

オサムシ科 Carabidae

- (1) アトモンアオゴミムシ
Chlaenius (Ocybatus) bioculatus Chaudoir, 1856
1ex., 13. VII. 2019, 高原, 坂元

アツバコガネ科 Hybosoridae

- (2) フチトリアツバコガネ
Phaeochrous emarginatus Laporte, 1840
1♀, 13. VII. 2019, 高原, 金井 1ex., 13. VII.
2019, 高原, 坂元



図 4. フチトリアツバコガネ

コガネムシ科 Scarabaeidae

- (3) フタスジカンシヨコガネ *Apogonia bicarinata bicarinata* Lewis, 1896
2♂, 13. VII. 2019, 高原, 金井
- (4) オキナワシロスジコガネ *Polyphylla (Granida) schoenfeldti* Brenske, 1890
1♂, 13. VII. 2019, 高原, 坂元
- (5) アマミヒメクロコガネ *Sophrops kawadai kawadai* (Nomura, 1959)
1ex., 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元
- (6) サンカクスジコガネ *Anomala triangularis* Schönfeldt, 1890
1ex., 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元
- (7) リュウキュウツヤハナムグリ *Protaetia (Pyropotosia) pryeri oschimana* (Nonfried, 1895)
3exs., 13. VII. 2019, 集落, 坂元

コメツキムシ科 Elateridae

- (8) オオフタモンウバタマコメツキ *Cryptalaus larvatus larvatus* (Candèze, 1874)

1ex., 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

- (9) オオナガコメツキ *Orthostethus sieboldi sieboldi* (Candèze, 1873)

3exs., 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

- (10) アカアシオオクシコメツキ *Melanotus (Spheniscosomus) cete cete* Candèze, 1860

2exs., 13. VII. 2019, 高原, 坂元

ホタル科 Lampyridae

- (11) キイロスジボタル *Curtos costipennis* (Gorham, 1880)

1♂, 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

- (12) モンキゴミムシダマシ *Diaperis lewisi intersecta* Gebien, 1914

1ex., 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

- (13) リュウキュウニジゴミムシダマシ *Tetraphyllus laevis* M. T. Chûjô, 1977

2exs., 13. VII. 2019, 高原, 金井

カミキリムシ科 Cerambycidae

- (14) チャイロヒメカミキリ *Ceresium simile flavopubescens* Kusama & Takakuwa, 1984

1ex., 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

- (15) アメイロカミキリ *Stenodryas clavigera insularis* Yokoyama, 1966

1ex., 13. VII. 2019, 高原, 坂元

- (16) ムツボシシロカミキリ *Olenecamptus taiwanus* L. S. Dillon & E. S. Dillon, 1948

1♀, 13. VII. 2019, 大縄, 金井 1♂, 13. VII. 2019, 高原, 坂元

- (17) オキナワゴマフカミキリ *Mesosa (Perimesosa) pictipes miyamotoi* Hayashi, 1956

1♂, 14. VII. 2019, 大勝山, 坂元

チョウ (鱗翅) 目 LEPIDPTERA

アゲハチョウ科 Papilionidae

- (1) ジャコウアゲハ奄美・沖縄亜種 *Atrophaneura alcinous lochooana* (Rothschild, 1896)

1♀, 13. VII. 2019, 集落, 坂元

- (2) シロオビアゲハ *Papilio polytes* Linnaeus, 1758

1♂, 13. VII. 2019, 集落, 坂元

- (3) ナガサキアゲハ *Papilio memnon* Linnaeus, 1758

1♂, 13. VII. 2019, 集落, 坂元

- (4) オキナワカラスアゲハ奄美亜種 *Papilio ryukyuensis amamiensis* (Fujioka, 1981)

2♂, 13. VII. 2019, 集落, 坂元 1♂, 13. VII. 2019, 高原, 坂元

- (5) アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* (Linnaeus, 1758)

1♂, 13. VII. 2019, 大縄海岸, v

シロチョウ科 Pieridae

- (6) キチョウの一種 *Eurema* sp.

1♂1♀, 13. VII. 2019, 大縄海岸, 坂元 2♂, 13. VII. 2019, 高原, 坂元

キチョウ類には, キタキチョウ *Eurema mandarina* (de l'Orza, 1869) と近縁のキチョウ (ミナミキ
チョウ) *Eurema hecabe* (Linnaeus, 1758) とが知られている。特に奄美大島以南では, 両種が混在

している島も知られているが、識別するには前翅縁毛を実体顕微鏡で拡大し、黄色のみであればキタキチョウ、黄色と褐色が混じっていればキチョウとなる。今回採集した個体を検鏡するまで至らなかったために、不明としておく。

シジミチョウ科 Lycaenidae

- (7) アマミウラナミシジミ *Nacaduba kurava* (Moore, [1858])
1♂, 13. VII. 2019, 大縄海岸, 坂元

タテハチョウ科 Nymphalidae

- (8) リュウキュウミスジ *Neptis hylas* (Linnaeus, 1758)
1♀, 13. VII. 2019, 大縄海岸, 坂元
- (9) イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas* Doyère, [1840]
1♂, 13. VII. 2019, 大縄海岸, 坂元
- (10) リュウキュウムラサキ *Hypolimnas bolina* (Linnaeus, 1758)
1♂, 14. VII. 2019, 高原, 坂元
- (11) ヤエヤマムラサキ *Hypolimnas anomala* (Wallace, 1869)
1♂, 14. VII. 2019, 高原, 坂元
福田・守山 (2013) によれば、与路島での本種は初記録である。
- (12) リュウキュウヒメジャノメ *Mycalesis madjicosa* Butler, 1868
1♂, 13. VII. 2019, 大縄海岸, 坂元

4 地域の昆虫を調べる意義

「新種を発見する」というのは、その標本が今までに知られている世界中の似ている種と、ここが違うということを証明しなければならない。そのためには膨大な文献を集めて比較する必要があり、素人ではなかなか手が出ない分野である。

しかし「新分布記録」は、調査し、同定を行い、過去の記録と照らし合わせることで、比較的素人でも可能である。与路島に行くには、古仁屋からフェリーせとなみに乗るか (片道 1030 円)、中渡し船 (古仁屋から加計呂間島瀬相に渡り、船頭の車で於斉まで移動した後漁船で送ってもらう：1 回 6000 円の人数割り) という方法しか、基本的にない。そのため調査が頻繁に入ることはなく、まだまだ新記録がたくさん出る地域と思われる。

しかも、琉球列島の分布の穴埋めをする感覚で行い、いなければ「その理由」を探るきっかけとなる。たとえば、与路島にはオオシマゼミがいないが、奄美大島、加計呂間島、請島、徳之島、沖縄本島などには分布している。アマミハンミョウ

は奄美大島、加計呂間島、徳之島に分布しているが、請島と与路島には見られない。なぜこの地域で



図 5. 調査者 (左：金井, 右：坂元)

与路島に分布していないのか、元々いないのか、ある時期になくなったのか判断はとても難しいが、とても興味深い謎である。

調査し、標本を精査して、記録を発表して、初めて他者が引用できる記録となる。個人的にデジカメで写していても、発表しなければ記録とはならない。そういう意味では、今回の調査結果を発表できたことで、この報告は与路島を調査する人々に引用されるであろう。



図 6. ハマスズのいた大縄海岸



図 7. 集落の塀と用心棒

5 謝辞

ムツボシシロカミキリ、リュウキュウニジゴミムシダマシ、フタスジカンショコガネ、フチトリアツバコガネについては、日本甲虫学会の秋田勝己氏に同定していただいた。お礼申し上げます。

6 引用文献

- 福田晴夫・守山泰司 (2013) 鹿児島県産チョウ類の分布ノート. *Satsuma*, (150) : 3-40.
- 東清二・屋富祖昌子 (2002) 琉球列島産昆虫目録. 570pp. 沖縄生物学会, 西原町 (沖縄県).
- 林正美・税所康正 (2015) 改訂版日本産セミ科図鑑. 221pp. 誠文堂新光社, 東京.
- 猪又敏男・植村好延・矢後勝也・神保宇嗣・上田恭一郎 (2010-2013) 日本産蝶類和名学名便覧.
<http://binran.lepimages.jp/> (2020年2月3日閲覧).
- 石川忠・高井幹夫・安永智秀 (2012) 日本原色カメムシ図鑑第3巻. 573pp. 全国農村教育協会, 東京.
- 町田龍一郎・日本直翅類学会 (2016) 日本産直翅類標準図鑑. 384pp. 学研プラス, 東京.
- 日本直翅類学会編 (2006) バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 687pp. 北海道大学出版, 札幌.
- 岡崎幹人 (2010) 2010年に観察された与路島のトンボ. *Satsuma*, (144) : 202-206.
- 尾園暁・川島逸郎・二橋亮 (2012) 日本のトンボ. 531pp. 文一総合出版, 東京.
- 鈴木 茂 (2019) 日本列島の甲虫全種目録. <https://japanesebeetles.jimdofree.com/> (2020年2月3日閲覧).

7 追記

3月3日公開後、山下秋厚氏 (鹿児島昆虫同好会) より3点指摘を受けた。

- ・マダラゴキブリはオオゴキブリ科であること
- ・ハラオカメコオロギはトカラ列島が南限で、奄美以南はネツタイオカメコオロギであること
- ・ハマスズとして報告したものは、ハマコオロギであること

この3点について、元を取り消し線で残し、新に追記した。山下氏にお礼申し上げますと共に、このような誤りを一時的にしる公開してしまい、心からお詫びする。